

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所おひさま		
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 13日		～ 令和7年 12月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17人	(回答者数) 17人
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 13日		～ 令和7年 12月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人一人にじっくり、ゆっくり寄り添いながらその子らしさを引き出せる療育を行っています。「楽しい」「行きたい」と子ども一人一人が思えるような活動を日々、提供出来るようにしています。	子供たち一人ひとりの興味のある事や「やってみたい」事に挑み出来るような活動の中で、それぞれ目標を立て、「出来た」経験を多く積みながら、自信に繋がられる経験が出来るようにしています。	今まで以上に職員間で子ども一人一人の情報共有を密にし、日々の振り返りやケース会議等に時間を掛け一人一人に丁寧な関わりに繋がっていきます。
2	室内、室外ともに広々としたスペースで活動出来ています。	広い空間を生かした活動を取り入れ、のびのびと思いつき遊びを楽しめるような設定を工夫しています。又、周辺の公園等も利用しながら自然の中で季節を感じられる活動を取り入れています。	子ども達の使いやすい、楽しめる物を園庭に増やしていく予定です。
3	年間を通して言語聴覚士、作業療法士、心理師の専門職の事業所訪問があり、活動内容の指導や個々の丁寧な支援方法に繋がっています。	専門職の先生のアドバイスを受け、子どもの現状の整理や支援に繋がっています。的確な専門的観点化からのアドバイスを日々の活動や子ども一人一人の関りに取り入れています。	今後も継続する事で、専門的視点からの支援を日ごろの活動に取り入れ、家庭や通所園さんと同じ方向性で一人一人にあった丁寧な関りに繋がられるようにしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士ゆっくり交流できていません。又、兄弟同士の交流の機会がありません。	年間で親子触れ合い活動を実施しているが、活動メインで、交流の時間を多く設ける事ができていません。兄弟同士の交流の機会はありません。	親同士ゆっくりと交流できるような場を提供できるようにし、可能な範囲で兄弟同士も交流出来る場を設けるようにしていきます。
2	保育所や認定子ども園、幼稚園との交流や、その他地域での他の子どもと活動する機会。	地域での子どもとの交流は少ない回数ではあるが、(子育て支援センター、図書館、公園等の利用で)機会を設ける事が出来たが、少なかった。	定期的に活動に取り入れるなどして、可能な限り機会を増やしていけるようにします。
3			